

いま「協同」を拓く 2002全国集会 in九州 歓迎の挨拶

古川正紀（九州国際大学副学長）

本日は、急に寒くなりましたが、いま「協同」を拓く2002全国集会に全国から三週去れました皆様へ、会場を提供することになりました九州国際大学を代表しまして、歓迎のメッセージをお贈りしたいと思います。

さて、10年を超える長期不況で混迷を続けております日本経済が、明るい将来を保障するようになるためには、高度成長が終わりバブルが崩壊して明らかになりました、産業経済構造のアンバランスを正し正常化しなければなりません。アンバランスは一言でいいますと内需型大企業の過剰構造だと言えます。代表的にはゼネコン等の建設不動産、ダイエーに代表されるような商業、銀行に代表される金融などの過剰な供給構造が是正され、それに伴う失業等の解決は、二つの方向で行われなければならないのではないかと考えています。

ひとつは、今日お集まりの皆様方の目指される方向と同じ、地域に根ざし地域の復興を担う経済活動であり、今ひとつは、本日のサブタイトルで対抗軸として出されておりますグローバル化の事柄なのですが、それを全面否定するのではなく、その流れをむしろ管理しながら、ある程度持っ

ていかざるを得ない方向ではないかと思えます。

ひとつの例としまして、日中の経済関係を見てみましょう。中国経済は現在、世界で一番元気がいいと言われておりますけれども、中国の経済発展は日本の経済発展も巻き込んでいると行うことができると思います。これは、中国なりのやり方でグローバル化に乗っているということです。うちの大学は最近留学生が多いのですが、彼らに聞きますと彼らのお父さんの時代は中学で第一外国語はロシア語だったらしいのですが、最近は英語が第一外国語だと言っています。地方によっては日本語が第一外国語になるところもあるそうですが、とにかく、中国が世界で一番発展しておりまして、それは日本の発展にも関係しているわけです。

世界的な環境問題の解決や社会保障の再建のためにもお金がいるのですから、そういう意味で経済の活力の面を認めて、その行き過ぎや間違った方向には修正を加えるということをしながらか、それなりの付き合いをしつつ、二つの方向で日本の混迷を乗り切っていかなければならないのではない



か、と私の専門の経済の分野からひとこと述べさせていただきました。

本日と明日、本大会が成功されますことを心より希望しております。

